

所内研修「読書活動」で発達に応じた読書指導を考える

子どもの発達段階に応じた読書指導のあり方と絵本の選定の仕方等についての理解を深めることを目的に、去る12月10日(水)に所内研修として、八重瀬町立具志頭小学校の図書司書 真座孝乃先生を講師にお迎えし、「読書活動」の題でご指導をいただきました。

今回は、「読書活動」ということで、南部広域行政組合の職員の皆さんも含めて14名の方々が真座先生の工夫が随所に施された90分の講話に聞き入っていました。

【講話の主な内容】

- 1 人は何のために本をよむのか
 - (1) 教養の読書
 - ① 情報を得る
 - ② 理解を得る
 - (2) 文学の読書
 - (3) 読書の意義・価値
 - ① コミュニケーションの基礎
 - ② 自己形成の糧
- 2 子どもにとっての読書する意義
 - (1) 言葉を学ぶ・読むことを学ぶ
 - (2) 想像力・思考力・判断力などの育成
 - (3) 情報処理能力の育成
 - (4) 知識や情報を得る
 - (5) 「生きる」ための知恵を得る
 - (6) 心のごっこ遊びを体験する
 - (7) もうひとつの世界と出会う
 - ※本とゲームの違い
 - 本の世界 → 著者が構築した世界。著者の意思がある。
 - ゲームの世界 → 制作者の用意した世界。視聴者のアクションによって世界が変えられる。
- 3 発達段階に応じた読書
 - ◆読書能力の発達(読字力・語彙力・読解力・速読力・感想力・総合読書の発達)
 - (1) 前読書期(4歳以前)
 - (2) 読書入門期(4歳～6歳)
 - (3) 初歩読書期(小学1年～3年)
 - (4) 多読期(小学4年～中学1年)
 - (5) 成熟読書期(中学2年～)
 - ※参考資料 読書と豊かな人間性(史リース学校図書館学4)
- 4 絵本の選び方
 - ・よい本の見分け方
 - ・絵本の秘密
 - ・サイドストーリー絵本
 - ・マンガ絵本
 - ・親子の対話絵本
 - ・未知の世界体験絵本
 - ・しつけ絵本
 - ・ナンセンス絵本
- 5 読み聞かせ
 - (1) 読み聞かせが育てるもの
 - ① 本に親しむ心
 - ② 豊かな心
 - ③ 読みの土台を作る
 - ④ 適書や良書を選ぶ力を育てる
 - 適書→自分に合った本
 - 良書→心に響く本
 - (2) 集団の読み聞かせの良さ
 - 本の世界を共有し、共感体験
 - 他の人の作品の感じ方とらえ方を知ること
 - 友達の個性を知り、理解し、刺激を受ける
 - 自分を見つめる機会
 - 共通体験、共通の話題を持つ楽しさ、喜びの体感



写真1 所内研修の様子



写真2 真座先生を囲んで



写真3 紹介いただいた絵本を手に

【紹介いただいた絵本の一部】

- ますだくん
- さむがりやのサンタ
- ろくべえ まってろよ
- はらぺこ あおむし
- わたしのワンピース
- ちいさな ヒッポ
- ぼく つかまらないもん!
- もりのなか
- おやすみなさい フランス
- たろうのともだち
- はけたよ はけたよ

【教育研究員の感想】

今日の読書活動に関する講話を受け、これまで毎日のように絵本の読み聞かせをしていたにもかかわらず、知らないことが多かったと反省させられましたが、逆を言えば、今日でたくさんの学びや気づきがあったということです。

保育や子育ての中で、絵本の素晴らしさを実感していた時期に、今日の講話をうけることができ、あっという間の2時間でした。発達段階に応じた読書ということで、読書能力には読字力や語彙力等複数あること、年齢に応じて前読書期～成熟読書期までの発達段階があることを初めて知りました。幼稚園の子ども達がどの発達段階にあるのか、またその後の発達はどういう道筋をたどるのかを知ることができ、保育で絵本を取り入れるときの重要な視点、また小学校への学びの連続性の視点からも重要な部分を学ぶことができました。

「いい絵本を選ぶために」ということで、たくさんの絵本を実際に紹介して下さり、絵本を選ぶ時の視点が見えてきました。自分が持っている絵本もありましたが、その良さを知らずに読み聞かせをしていたので、今日の視点からもう一度読み返してみたいと思います。絵本は身近にあり親しみやすい教材ですが、1つ1つの絵本の良さ、作者が訴えたいことは何か、等もう1歩考えを踏み入れていきたいと思います。

(稲嶺あゆみ)

今回の「読書活動」の講話は本や絵本の見方が変わるほど有意義な研修となりました。まず驚いたのは発達段階に応じた読書がとても細かく分類されていることでした。児童の読書に関する発達の視点を目安に、これからの児童の読書活動に生かすことができそうです。また一つひとつの本の中に作者の意図した工夫がたくさん盛り込まれていることも真座先生の話の中で知ることができました。「絵本は文だけでなく挿絵の部分に注目して見ることも大切だ」と他の先生から教えてもらったことがあります。真座先生が話していたサイドストーリーもその一つだと思います。絵本の中に隠されている部分を見つけながら読むことも絵本の楽しさに繋がるだろうと思いました。お薦めの本を紹介してもらったので、学級で読み聞かせをするときは児童に合う内容を考えながら読んであげたいと思います。国語の教科書にある物語文のねらいと作者の意図は違うこともあるということをとめ、原作の本をもう一度読んでいきたいと思いました。(安座名有里)

『読書力』(齋藤孝/著)「読書することによって言葉を学ぶ。新しい単語と出会い(中略)読書する力と知性はあいまって高まっていく。」日常会話は3000語程度、家庭での会話は親の知っている単語しか出てこないということでした。しかし、本を読むことによって日常触れることのできない言葉に触れることが大切だとわかりました。

発達段階に応じた読書では、おおまかな学年区分がされていたので、読書の様子を観察してそれぞれの読書期になるように声かけをしていきたいと思います。絵本選びでは絵本の持つ伝えたいテーマは何かを知ることが大事だとわかりました。普段何気なく読んでいたので今日からは考えて読みたいと思います。

キャリア教育やいじめ問題に対応する絵本も紹介していただきました。読み聞かせによる効果の中に、共感の体験や自分を見つめる機会、友達の個性を知るなどあったので、みんなで考えるときにも有効な方法だと思いました。親子の対話の絵本は楽しみなので、帰りに買って早速読み聞かせをしたいと思います。

読書や絵本の見方などたくさんの知識を得て、これから本に接するのが楽しみです。真座孝乃先生貴重なお話ありがとうございました。(勢理客貴之)

私は読書が好きで、子どもにもいつでも読める環境を作るため、古本を買い学級文庫に置いています。しかし、「子どもにとって読書する意義」や「発達段階に応じた読書」ということについて考えたことはあまりなかったです。今日の事が分かると、教師も狙いを持って読書する機会を与えられてよいと思いました。多読期以降に本を読む機会を失ったり偏読があったりすると、読書能力の発達が遅れたり、偏ったりするそうなので、子どもに任せるだけでなく、読書の奨励を行いたいと思いました。

絵本の解説もとても分かりやすく、読んでみたいと思う絵本が多くありました。自分が読んだことのあるスイミーの話は、協力がテーマだと思っていたのに、実は自分探しがテーマだと知り驚きました。いじめがあった時には「あかいほっぺた」、高学年のキャリア教育には「ともだち」を読んだ方がよいなどの提案があり、読んでみて共感できました。

最近の研究に関する本ばかり読んでいるのですが、他のジャンルの本も読みたいなる研修でした。(比嘉俊雄)

ふつうの会話で使用する単語の数が3000。この数が小学校低学年の子が会話で使用する単語の語数と知って、新たな知識になりました。テレビや新聞などで使用される言葉は、中学校卒業程度の語彙があれば、理解できる内容になっていると聞いたことがあります。しかし、3000の言葉で事足りるからといって、それでよいかと言えばよろしくないと思います。私達が人間であるという証拠として、私達は言語生活を営んでいるのです。言葉をとおして豊かな感性を培っていく過程は人間にしか与えられない大事なことだと思います。幼い頃から絵本に親しむことが、生涯にわたって子どもが本に親しむ生活の基盤を作ることに関わるのだということ。子どもの成長過程において、それぞれの発達段階で望ましい本との関わりを持たせてあげること。短い研修の時間ではありましたが、たくさんたくさん、優れた絵本と言われる根拠を知ることができ、絵本は目で追うだけでなく、文字にはないサイドストーリーを追うことも絵本の楽しみ方だと気づかされました。発達段階に応じた読書能力は、生徒自身が自分の力を知る上でとても参考になると思います。学校現場でも活用したいと思います。(古謝栄子)